

くるめ版 学力向上のすすめ vol. 2

# みんなで実践しよう 検証改善サイクル(PDCA)



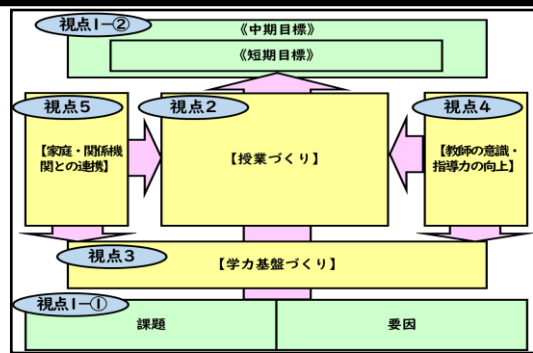
- 1 学力向上プランの進め方を確認しよう! ..... p. 2
- 2 学力向上プランの検証改善サイクル (PDCA) とは? ..... p. 3
- 3 検証改善サイクル (PDCA) は、「誰が」「どうやって」進めるの? .. p. 4
- 4 調査研究協力校の検証改善サイクル (PDCA) を見てみよう! ..... p. 6
- 5 検証改善サイクル (PDCA) の実践は、学力向上につながるの? .. p. 12



# 1 学力向上プランの進め方を確認しよう！

## Step1 学力向上プランの作成

- ・ 課題の分析
- ・ 要因の検討
- ・ 目標の設定
- ・ 取組の設定



## Step2 学力向上プランの共有 (みんなのものに)



### Step2.5 学力向上プランの実践 (やってみる)

vol. 2では  
ここを中心に  
紹介

PDCAサイクル  
を基に実践



### Step3 学力向上プランの改善 (よりよいものに)

学力向上プラン

改善した  
学力向上プラン

さらに改善した  
学力向上プラン

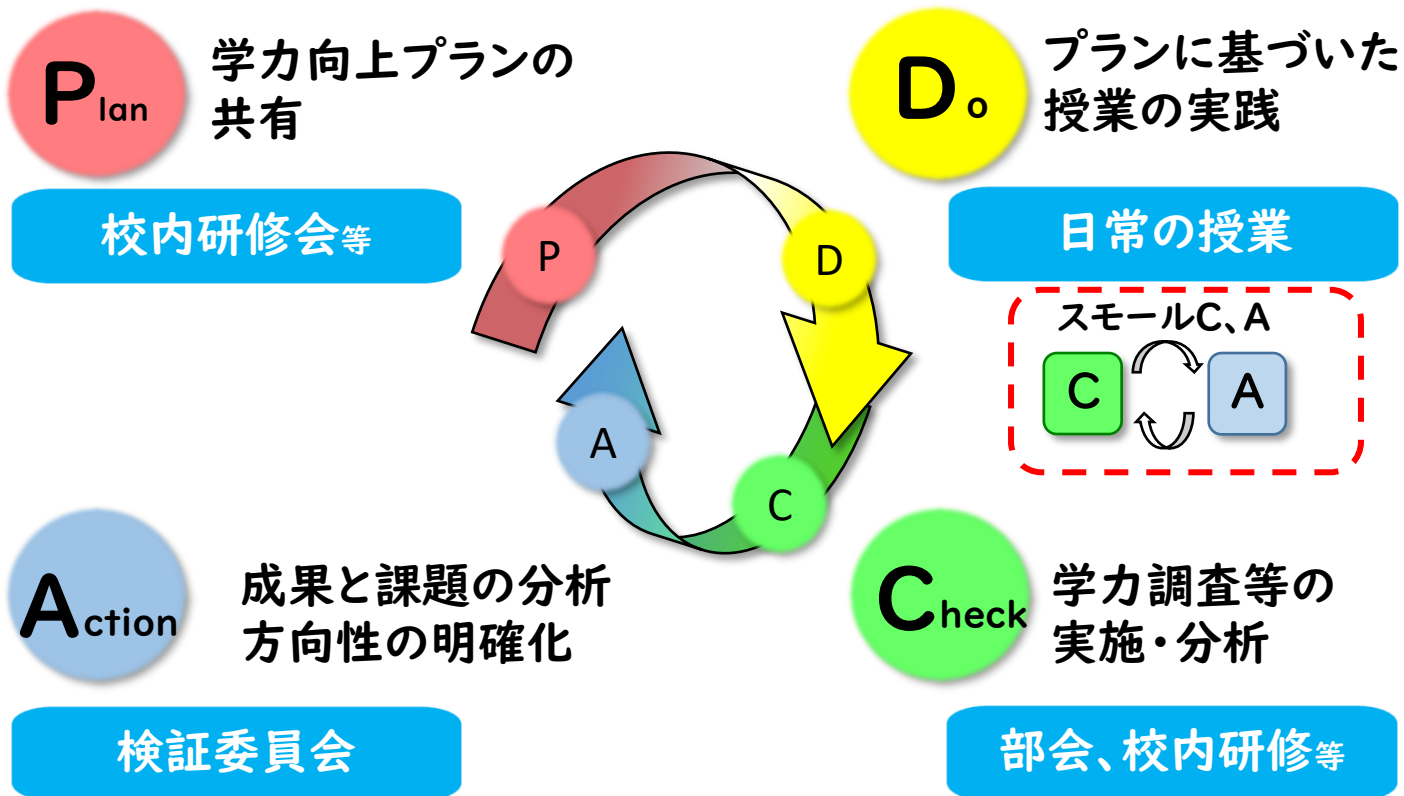


vol. 1でプランの作成、共有までは確認できたけれど、PDCAの各段階では、どう進めればいいのか？

## 2 学力向上プランの検証改善サイクル (PDCA) とは？

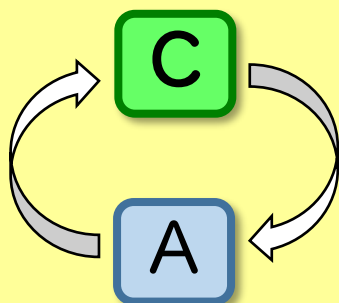


### 検証改善サイクル (PDCA) の構成



検証改善サイクル (PDCA) を機能させるためには、日常の授業において授業改善を継続的に行うことが大切です。そのためにD段階の中に、スモールC、Aを位置付け検証します。

### D段階におけるスモールC、Aの構成



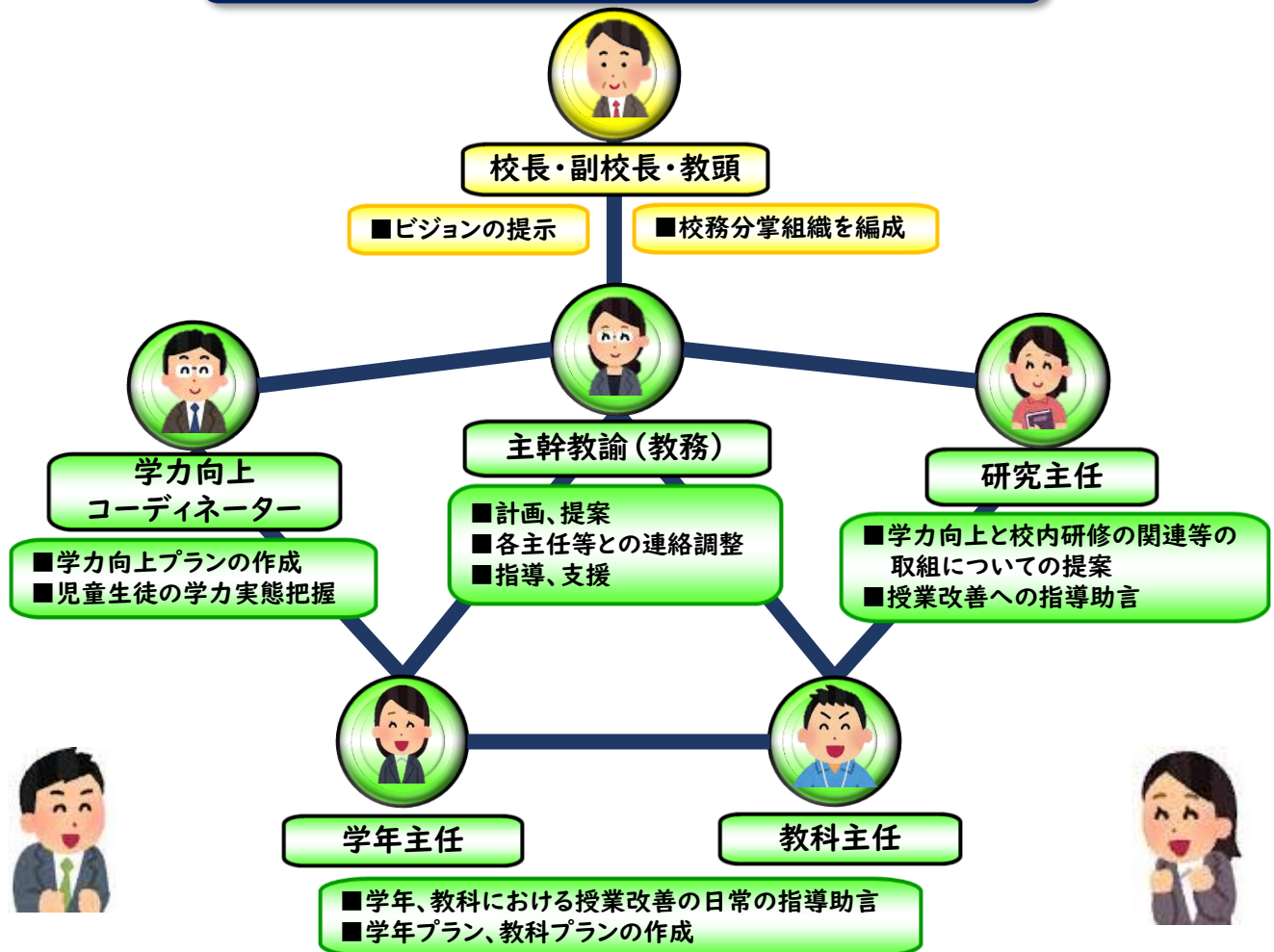
授業での見取り  
学年・教科部会、授業整理会等での協議

手立ての改善

### 3 検証改善サイクル（PDCA）は、「誰が」「どうやって」進めるの？



## 校内におけるマネジメント



校長・副校長・教頭等のスクールリーダーのリーダーシップのもと、ミドルリーダーの中でも主幹教諭（教務）が中心となって、研究主任や学力向上コーディネーター、学年主任、教科主任等と**役割分担・連携**しながら他の職員に働きかけ、全教職員による取組が大切です。

上記にあるミドルリーダーの働きを、各PDCA段階でどのように実践すればいいのかな？  
次は、各学校の具体的な実践を見てみましょう！



# 調査研究協力校の検証改善サイクル（PDCA）は このように見よう！

様々な取組の中から、各学校の特色ある実践を、PDCAの各段階ごとに紹介しています。



各段階で行われた校内のマネジメントについて、項目と図で示しています。

## P段階

## D段階

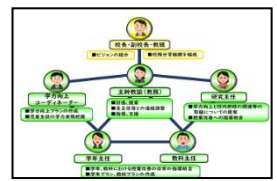
【誰が】  
【どこで】  
【目的】 学力向上プランの作成と取組の共有

【誰が】  
【どこで】  
【目的】 学力向上プランに基づいた取組の実践



P段階での  
実践

D段階での  
実践



年度初めに作成した  
学力向上プラン

視点1-① 課題 要因

## A段階

## C段階



A段階での  
実践

C段階での  
実践



【誰が】  
【どこで】  
【目的】 方向性の明確化  
学力向上プランの改善

【誰が】  
【どこで】  
【目的】 学力調査等の実施と分析

取り組んだ結果・・・

学力向上プランに取り組んだ結果、どのような変容が見られたのかを示しています。

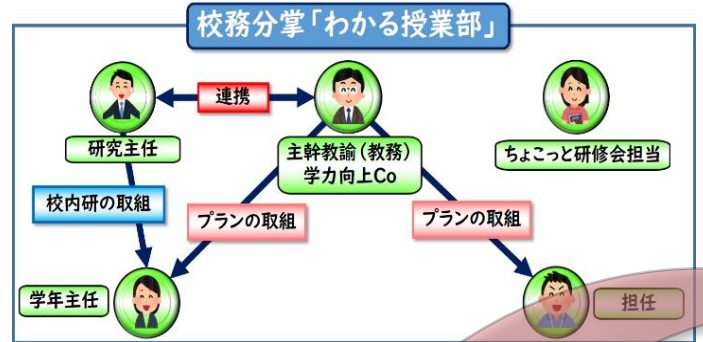


# 4 調査研究協力校の検証改善サイクル (PDCA) を見てみよう! 【事例1】

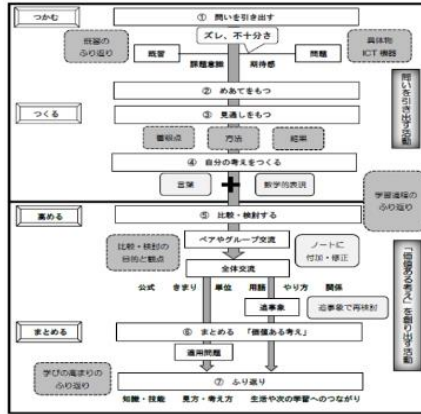


## P段階

- 【誰が】 学力向上Co、研究主任
- 【どこで】 校内研修会
- 【目的】 主題研究と視点2の取組の関連について提案



### プラン取組を共有



- ・校内研修と視点2の取組を関連させた日常の授業づくり(算数科)

- ・校内研修で提案された学習過程

令和2年度 久留米市立合

■視点1-② 《中期目標》一人一人の表現力、話し合う力を高め、  
《成果指標》令和4年度の全国調査の標準化得点:国

《短期目標》主体的に学習に取り組み、基礎・基  
《成果指標》令和3年度の全国調査の標準化得点  
(令和3年度福岡県学力調査【中1】において、)

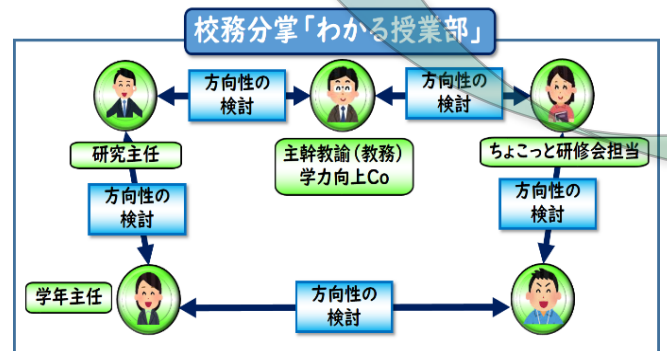
■視点5  
【家庭・関係機関との連携】  
《取組(指標)》  
④家庭学習の手引きをもとにがんばり週間の実施(1学期に1回児童の自己評価)  
④家族de漢検の実施(学期に1回)  
《成果(指標)》  
◆カードの回収率(全クラス95%以上)  
◆家庭学習の完全実施(家庭学習10分間×学年が達成できる子供50%以上)

■視点2  
**視点2**  
《取組(指標)》  
②算数科においてあててまとめるのある授の一致した授業(1単位時間で習得する知案にめあてと主活動を記入する。)  
《成果(指標)》  
◆算数科においてあててをもとに、主眼にこがである。児童評価(1学期3.0以上)  
【**根拠を明確にして書きまとめ、解決した取組(指標)**】  
②算数科において図や式と関連させ、自分考えを交流する活動、生活とつながり返  
《成果(指標)》  
◆児童評価(1学期3.0以上:4段階評

【学力基  
《取組(指標)》  
①②算数科における少人数、TT指導(4、  
①パワーアップタイムの実施(火、木、金  
《成果(指標)》  
◆単元テスト(少人数クラスの児童 80/

## A段階

- 【誰が】 学力向上Co、研究主任
- 【どこで】 校内研修会
- 【目的】 分析結果を基に、授業改善やプランの方向性を検討



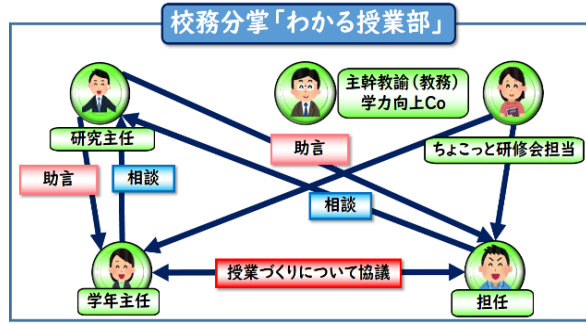
### 取り組んだ結果...

評価「1」の割合が減少

CRT結果 (R2年度は学校独自で実施)  
全児童における評価「1」の割合  
R1年度: 23%  
R2年度: 11%  
12%減少

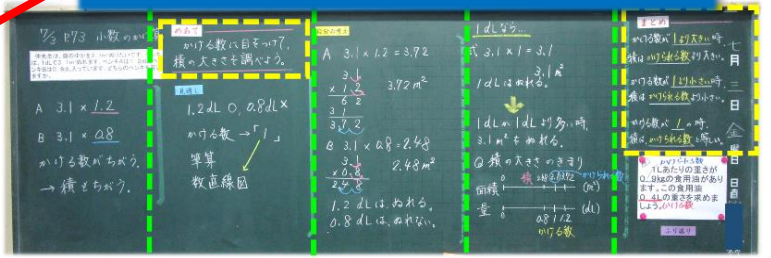
# 協力校①：合川小学校の検証改善サイクル (PDCA) 視点2、視点4を中心に

## D段階



【誰が】 研究主任、ちょこっと研修会担当  
 【どこで】 学年会、校内研修会  
 【目的】 日常の授業実践への助言や相談  
 通信による授業実践の共有

### 視点2と校内研修を関連させた授業



めあてとまとめの一致を  
意識した授業【視点2】

校内研修の学習過程を  
意識した授業【校内研修】

### 授業の実践を共有

### 授業改善の取組



・算数科通信の発行

・ちょこっと研修会の実施

### 合川小学校 学力向上プラン

学び合う子供の育成  
国語105以上 算数98以上

本を確実に習得し、状況に応じて活用できる子供の育成  
国語105 算数98  
目標標準化得点 国語105 数学98 (以上)

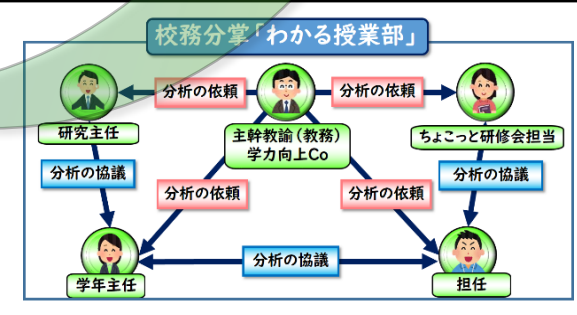
#### 視点4

【教員の意識・指導力の向上】  
 (取組(指標))  
 ②③指導案なしで授業を行ったり授業を「算数通信」にまとめたりする(全員年間1回以上)  
 ②③授業の基礎・基本を確認する職員室通信の発行(週1回以上)  
 希望者による「ちょこっと研修」の実施(月に1回)  
 ③主題研に応じた指導案を作成した研修会を実施(年に1回)  
 ④小中合同研修会の実施(年2回)

【成果(指標)】  
 ◆教職員による自己評価(3.0以上4.5未満評価)

5, 6年生 算数 実施率70%以上  
 土曜日 算数の計算 実施率80%以上  
 100点到達の児童 70%以上

## C段階



【誰が】 学力向上Co  
 【どこで】 学年会、校内研修会  
 【目的】 学力調査結果や授業評価  
 から成果と課題を分析

視点2と学習過程を意識した授業づくりなど、目的と方法を共有して学力向上プランの実践に取り組んだ効果が表れています。



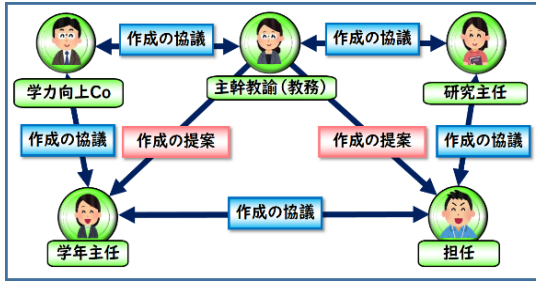


# 4 調査研究協力校の検証改善サイクル (PDCA) を見てみよう! 【事例2】



## P段階

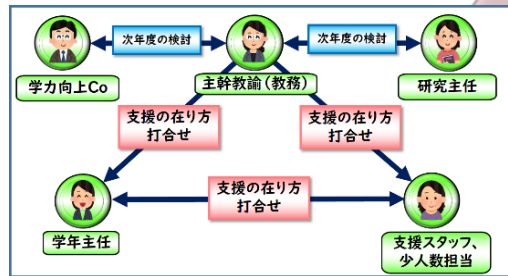
学年ブロックごとに協議



【誰が】主幹教諭  
【どこで】校内研修会  
【目的】学力向上プランの作成及び取組の共有

・全職員の意見を反映したプランの取組を共有

## A段階



【誰が】主幹教諭  
【どこで】校内研修会、定例会  
【目的】分析結果をもとに支援の必要な児童への支援の在り方等の打合せ

令和2年度 久留米市立城

《中期目標》主体的に課題を追究し、根拠を《成果指標》令和5年度の全国調査の標準化得  
《短期目標》基礎的な知識・技能を習得し、その《成果指標》令和2年度の全国調査の標準化得  
(令和2年度福岡県学力調査【中】)において、

### 視点2

【基礎・基本の確実な習得】  
《取組(指標)》  
①学習活動に、振り返りの場を設定する  
《成果(指標)》  
◆児童による授業評価(「授業がよく分かる」)  
【根拠を明確にして書きまとめ、解決したことや考えたこと】  
《取組(指標)》  
②根拠を明確にしながら自分の考えを書くこと  
【根拠を明確にして書きまとめ、解決したことや考えたこと】  
《成果(指標)》

### 視点3

【学力基盤づくり】  
①習熟度別少人数授業の中で補充・発展問題を実施する  
②学習プリント、テスト、宿題等の書き直しの徹底、評定1  
③学期末の国語テスト「読む」「漢字・ことば」算数テスト「自分によいところはありますか」「学校は楽しいか」「当てる回数が多いところはありますか」  
④OUテストによる客観的見取り

支援スタッフ等との打合せ



月1回の定例会

・教材(プリント等)、重点単元、グループ編成等について協議

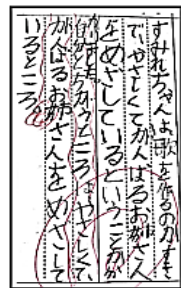
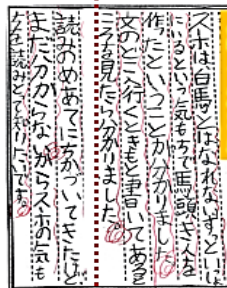
改善点の明確化



・SST、QUの結果を基にした授業づくりの具体化の検討

取り組んだ結果...

学びに向かう意欲の向上

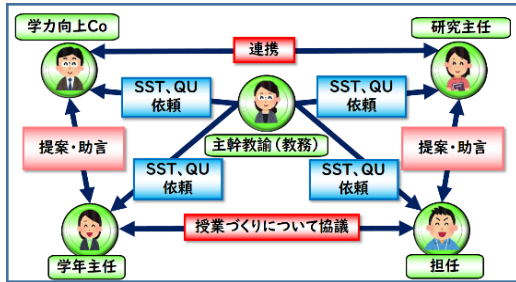


・学習の「振り返り」において、今後の意欲や見通しについて記述する児童の割合が増加



# 協力校②：城島小学校の検証改善サイクル (PDCA) 視点2、視点3を中心に

## D段階



【誰が】 学力向上Co、研究主任  
 【どこで】 主幹教諭  
 学年会、校内研修会  
 【目的】 視点2、3に基づく日常の授業実践

### 校内研修の構想と関連

#### 視点2【授業づくり】



・関連を図ることで、日常の授業において視点2の取組を実践

#### 校内研修の構想【学びをつなぐ】

### 視点3への取組

SST研修会  
 →人間関係づくり  
 QU研修会  
 →実態把握



・安心して過ごせる環境での授業実践

城島小学校 学力向上プラン

もとに自分の考えを表現できる子どもの育成  
 点：国語100 算数100 以上

を活用して課題を解決できる子どもの育成  
 京国語98 算数96 以上

県標準化得点 国語98 数学98

■視点4

【教員の意識・指導力の向上(取組)】

- ①学力調査問題(全国・県・市)等の一斉の全体考察・研修を行う。(8月の振り返り、交流活動を設定した校(公開授業・全員)
- ②生徒指導の3つの機能を生かして(自己決定、共感的人間関係、自己)小中合同の研修会の実施
- ③SST研修、CAP研修、QUテスト
- ④支援スタッフ会議をもとに指導方法について共通理解を行う。

〈成果(目標)〉

- ◆教員アンケート「自分の考えを分かりやすく説明している」3.3以上:4段階評定尺度)

【児童への個別指導(校外による支援)を受けたい人間関係づくりの実施)】

「考える力」(上位群2%以上増加、下位群4%以上減少)を高める。

「まあまああてはまる」:80%以上) 質問調査紙

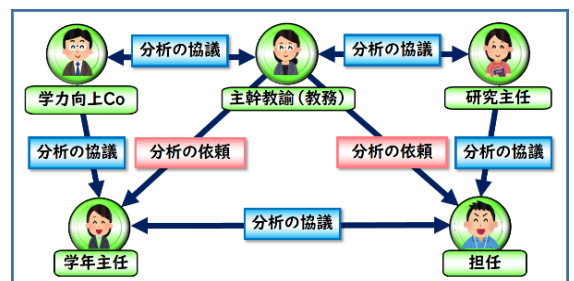
## C段階

【誰が】 主幹教諭  
 【どこで】 学年会、校内研修会  
 【目的】 学力調査結果及び授業評価、QU等の結果から成果と課題を分析

### QU等の結果の分析



・要支援群への支援の在り方の検討



視点2や3の取組を全職員で共有し、児童の学力の基盤づくりを重点に実践していくことで、学力の非認知能力に関わる部分の向上につながったと考えられます。

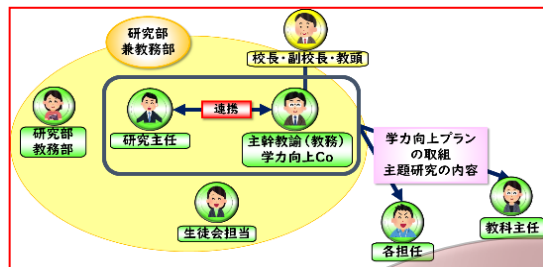


# 4 調査研究協力校の検証改善サイクル (PDCA) を見てみよう! 【事例3】



## P段階

【誰が】 学力向上Co兼教務担当  
主幹教諭、研究主任  
【どこで】 校内研修  
【目的】 校内組織体制づくり  
学力向上プランの共有



教務部と研究部の兼任

取組の内容を全職員で共有→校内掲示



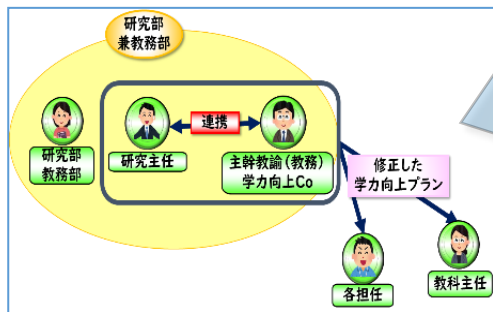
令和2年度 久留米市立青陵中学  
② 《中期目標》習得した知識・技能を活用して自分の考  
〈成果指標〉令和4年度の全国調査の標準化得点 :  
《短期目標》習得した知識・技能を活用して自分の考  
〈成果指標〉令和2年度の全国調査の標準化得点 : 国語

### 視点2

【基礎・基本の確実な習得】  
〈取組(指標)〉  
②具体的方向性を示す「めあて」の設定と、「めあて」の振り返りの実施(適案へ「めあて」の記載)  
〈成果(指標)〉  
◆生徒による授業評価(「めあての提示」)  
【根拠を明確にして書き・まとめ、解決し】  
〈取組(指標)〉  
①青陵学び合いスタイル(「個人思考」「活動」を取り入れた授業づくり(各教科))  
〈成果(指標)〉  
◆生徒による授業評価(「書く、話す活動」「全体交流」)  
3. 3以上: 4段階評価

## A段階

【誰が】 学力向上Co兼  
教務担当主幹教諭  
【どこで】 校内研修  
【目的】 プランの改善と共有



職員の意見を取り入れた学力向上プランの改善、共有

【視点2】  
「青陵学び合いスタイル」を「個人思考」と  
「全体交流」に焦点化

【視点3】  
チャレンジノート(自学ノート)の提出率  
目標を8割→9割へ(前期の提出率: 89%)

【視点5】の取組  
家庭学習時間調査



家庭学習時間の増加

関連

取り組んだ結果...

C・D層の  
基礎学力が向上

令和2年度到達度テストのC・D層  
8月→11月  
〔1年生〕 2.7ポイント減少  
〔2年生〕 9.9ポイント減少

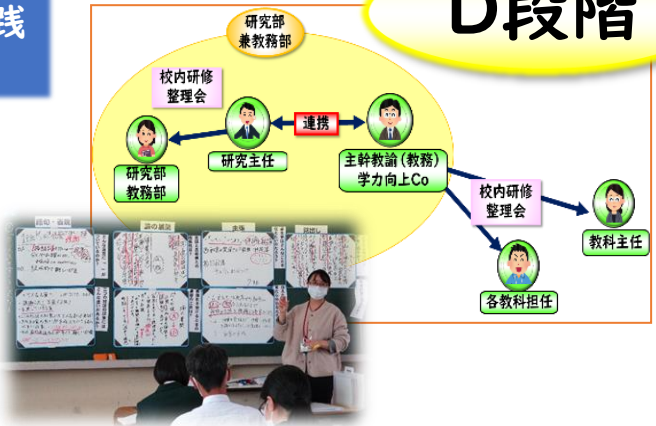


# 協力校③：青陵中学校の検証改善サイクル (PDCA) 視点2、視点3を中心に

「青陵学び合いスタイル」を取り入れた授業実践  
(「個人思考」「班交流」「全体交流」)

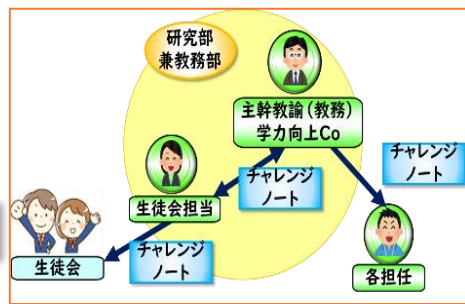
- 【誰が】 研究主任
- 【どこで】 毎日の授業、授業整理会
- 【目的】 授業改善、有効な手立ての共有

## D段階



「めあて」と「振り返り」を意識した自主学習の充実

- 【誰が】 生徒会担当(研究部)
- 【どこで】 朝の会
- 【目的】 生徒会によるチャレンジノート(自学ノート)の使い方の説明



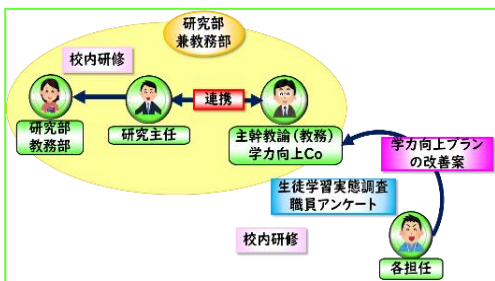
1	理科	物質の性質	物質の性質を調べる実験を行う。
2	理科	物質の性質	物質の性質を調べる実験を行う。
3	理科	物質の性質	物質の性質を調べる実験を行う。
4	理科	物質の性質	物質の性質を調べる実験を行う。
5	理科	物質の性質	物質の性質を調べる実験を行う。
6	理科	物質の性質	物質の性質を調べる実験を行う。

**めあて**

**振り返り**

### 視点3

- 【誰が】 学力向上Co兼教務担当主幹教諭
- 【どこで】 校内研修
- 【目的】 生徒学習調査及び職員アンケートを実施→結果の共有、課題等の分析



### 福岡県学力調査の問題分析



### 学力向上プランの改善案を集約

学力向上プラン【中期】の総括・見直しを行い、学力向上プラン【後期】の作成を行います。【視点1-】【視点2-】【視点3-】において、各先生方で振り返りいただき、ご意見を集約させていただきます。研究部にて【中期】原案を作成し、提案させていただきます。詳しく考えず、スモールステップで何らかのアイデアを提出可能な形でのアイデア等、多くの意見を頂ければ幸いです。よろしくお願いいたします。

【成果】  
めあて、めあてを必ず書くこと。  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。

【課題】  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。  
めあて、めあて、めあてを必ず書くこと。

【3学期に向けての取組・アイデア(来年度に向けてでもOK!)】

## C段階

「めあて」と「振り返り」を意識した自主学習の取組や「青陵学び合いスタイル」を取り入れた授業づくりなど、様々な取組を全職員で協働して実践したことが、生徒の学力向上につながりました。



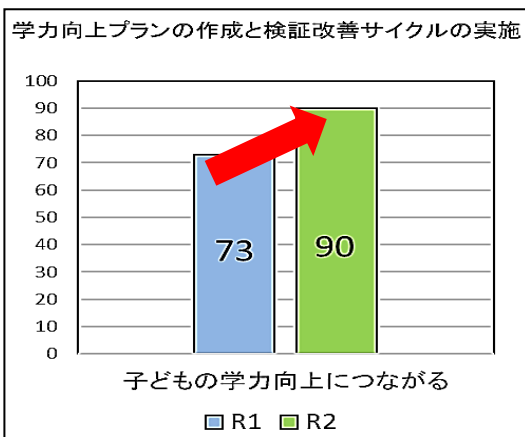


# 5 検証改善サイクル（PDCA）の実践は、学力向上につながるの？



## 調査研究協力校の教師アンケートより

Q: 学力向上プランの作成、検証改善サイクルの実施は、子どもの学力向上につながる。  
 （「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合とその理由）



「学力向上プランがめざすレベルを先達にして授業を行うことができたので。」

授業改善

「子どもの実態に合わせて、支援も具体的に考えていくことで、学力向上につながると思っています。」

支援の具体化、共有

「教職員が意志一致することで、子どもの安心や意欲につながります。」

職員の意識の向上

実効性のある検証改善サイクルにするためには、

- ・子どもの課題を踏まえた学力向上プランを作成すること
- ・全職員で協働して実践し、授業改善につなげることが大切なんだね。



vol. 3は、Step3「プランの改善」について掲載予定です。

【令和2年度 学力向上研究班】

学校教育課 指導主事 下川 嘉満、深野 良介、吉田 彩

教育センター 指導主事 北島 志保、三池 暁久

学力向上調査研究協力校 合川小学校、城島小学校、青陵中学校

久留米市教育センター 福岡県久留米市南1丁目8番1号

TEL:0942(36)9777/FAX:0942(35)9930

